

7月上旬に西日本を襲った大水害、戦争をするための自衛隊を、災害救助するための自衛隊に、今こそ変えなければ、と痛感します。

**福島第二原発 全基廃炉へ東電社長 福島県知事に表明「このままでは復興の足かせ」
政府・東京電力・花角新潟県知事（自民・公明支持） 柏崎刈羽原発の再稼働について
水面下で合意したからか？**

「東京電力の小早川智明社長は6月14日、内堀雅雄知事と県庁で会談し、東京電力福島第二原発1～4号機（富岡町と楡葉町）全てを廃炉にする方向で検討すると表明した。福島第一原発1～6号機（双葉町と大熊町）と合わせ、福島県内の原発全10基が廃炉となる見通しとなった。ただ、廃炉の具体的な工程は示されなかった。多額の費用や作業員の確保、廃炉で出る放射性廃棄物の処分など実現に向けた課題は多い。」

「東電は、運転開始から30年を超えている福島第二原発1～4号機の廃炉費用を計約2,800億円と見込むが、国内で実際に廃炉を完了した原発はなく増える可能性もある。原発事故の賠償や廃炉費用は約22兆円でうち約16兆円を負う東電にとって福島第二原発の廃炉は経営の重荷になりかねない。

廃炉作業では原子炉内の構造物や建屋のコンクリートなどの放射性廃棄物が発生するが、処分先は決まっていない。福島第一原発では1日約5千人が作業しており、人員確保も難航する可能性がある。東電は、残る柏崎刈羽原発（新潟県）の6、7号機の再稼働や東通原発（青森県）の完成に注力して経営再建を図る。

安倍晋三首相、世耕弘成経済産業相をはじめ政府はこれまで「福島第二原発を新規規制基準への適合性審査を申請している他の原発と同列に扱うのは難しい」としながらも、最終的な判断は「東電が県民の声にしっかりと向き合いながら判断すべき」との見解を繰り返してきた。」

評価と憤り 交錯 「1日も早く…」避難者ら、願い切実

「原発の全基廃炉は、震災以降、長年の願いだった」。富岡町からいわき市に避難している無職西山栄さん（70）は感慨深げな表情を見せた。飯館村から福島市の松川第一仮設住宅に避難している佐藤隆子さん（79）は「東電は今まであいまいな態度だったが、今回は知事にはっきりと伝えた。その言葉を信じたい」と受け止めた。

「あの日から7年が過ぎるのに、何を今さらという思いだ」。郡山市の富田町若宮前仮設住宅で生活する富岡町の農業西山俊一さん（69）は東電の遅過ぎる判断に怒りを隠さず、廃炉を伝える本紙号外を持つ手に力が入った。年内には帰還したいと考えているが、町内の実家の周囲では東電の財物賠償が済んでいない。原発事故前に営んでいた農業を再開する見通しもまだ立っていない。東電がもっと早く判断していれば町の復興はもっと進んでいたはずだ、との思いが消えない。昨年11月から富岡町の災害公営住宅で一人暮らしをする無職菅原啓子さん（77）は「福島第一原発と第二原発の廃炉作業が並行してできるのだろうか」との疑問を口にした。（「福島民報」18年6月15日付け）

【福島第二原発（富岡町・楡葉町）】



【この先、福島第二原発の入り口のため通行禁止】



* 廃炉になるまで 20～30 年間、約 1 万本の使用済核燃料棒を冷却保存し続けなければならぬ

【福島第二原発廃炉 に対する東京電力の（したたかな）交換条件】

- * 柏崎刈羽原発（新潟県）の再稼働と東通原発（青森県）の建設
- * 福島第一原発の放射能処理水の海洋投棄